

平成29年2月の
国内向け／輸出向け出荷の動向
図表集

平成29年4月7日

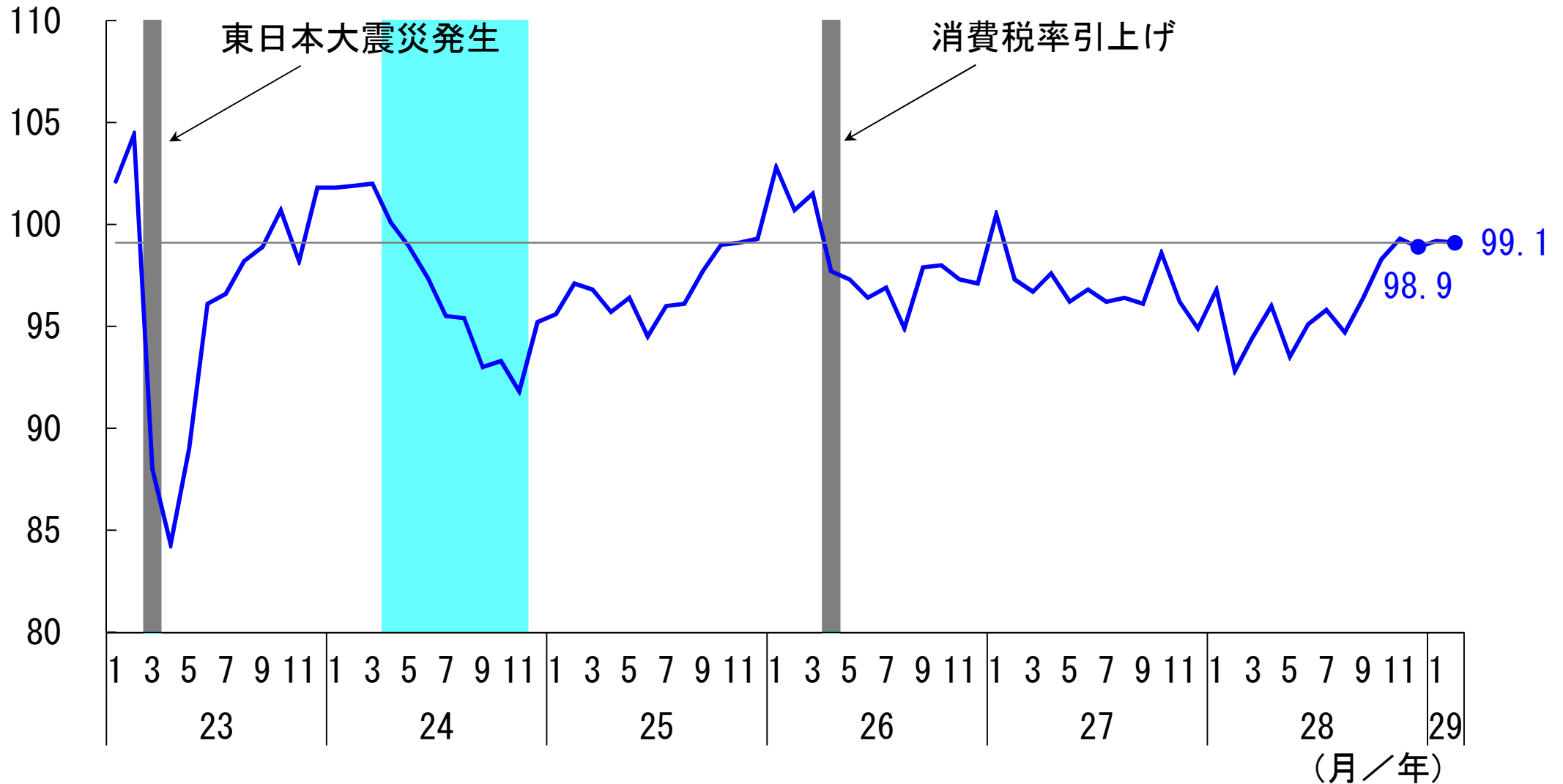
経済解析室

URL : <http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/utiwake/result-1.html>

鉱工業出荷指数の動向

- 平成29年2月の鉱工業出荷指数は99.1(前月比-0.1%)と2か月ぶりの低下。
- 平成28年12月の98.9以来の指数水準。

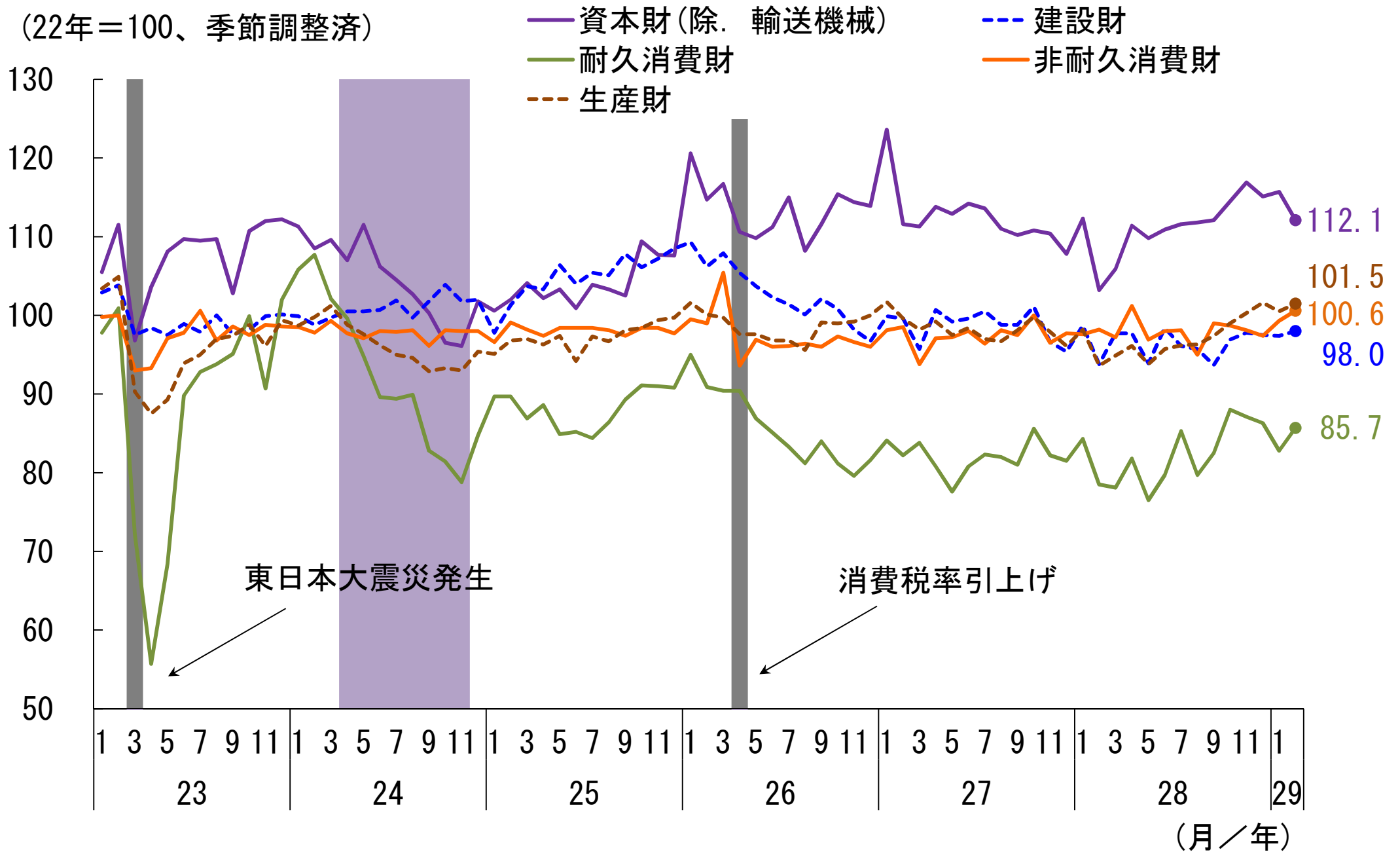
(22年=100、季節調整済)



(注)水色のシャド一部分は景気後退局面。

財別出荷指数の動向

(22年=100、季節調整済)



(注) 紫色のシャド一部分は、景気後退局面。

平成29年2月の鉱工業出荷内訳表の状況

出荷・国内向け出荷・輸出向け出荷

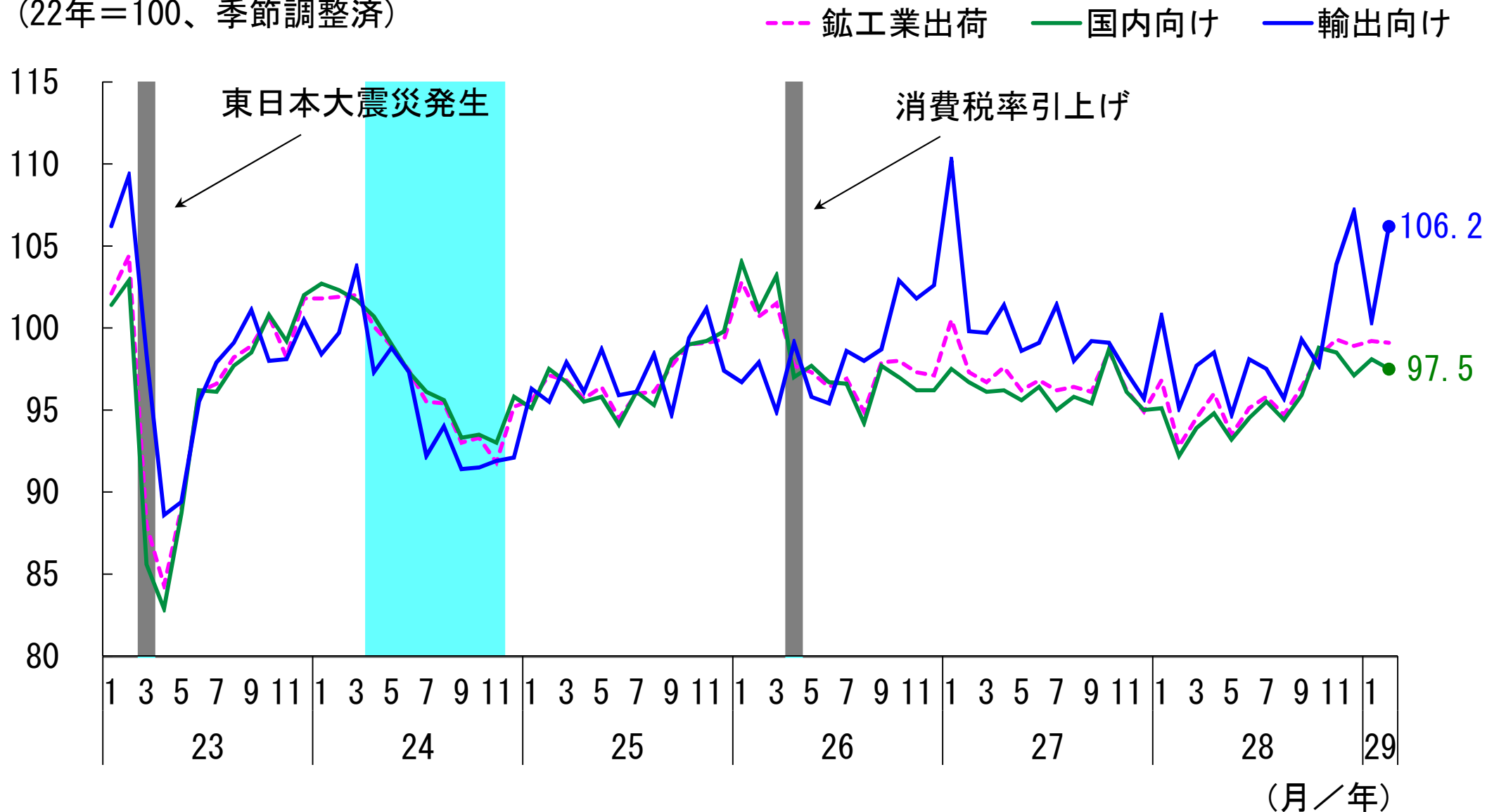
月次	出 荷	輸 出	国 内
季調済指数	99.1	106.2	97.5
前月比	-0.1%	5.8%	-0.6%
指数水準	H28.12 98.9以来 ①H21.2 79.2 ②H21.3 79.7 ③H21.4 80.7	H28.12 107.1以来 ⅠH20.1 118.3 ⅡH20.2 116.6 ⅢH20.3 116.3	H28.12 97.1以来 ①H21.2 81.9 ②H21.3 82.1 ③H21.4 82.7
前月比の動き	2か月ぶり- (H28.12以来)	2か月ぶり+ (H28.12以来)	2か月ぶり- (H28.12以来)
前月比幅	H28.12 -0.4%以来 ①H23.3 -15.7% ②H21.1 -9.5% ③H20.12 -7.1%	H28.11 6.3%以来 ⅠH21.10 8.7% ⅡH22.1 8.6% ⅢH27.1 7.4%	H28.12 -1.4%以来 ①H23.3 -16.8% ②H21.1 -9.5% ③H26.4 -6.0%

(注) Ⅰ～Ⅲは22年基準における最大値から上位3位まで、①～③は最小値から下位3位までの数値

国内向け／輸出向け出荷の動向

・平成29年2月の鉱工業出荷を国内向け／輸出向け別にみると、国内向けは97.5(前月比-0.6%)と2か月ぶりの低下、輸出向けは106.2(前月比5.8%)と2か月ぶりの上昇。

(22年=100、季節調整済)

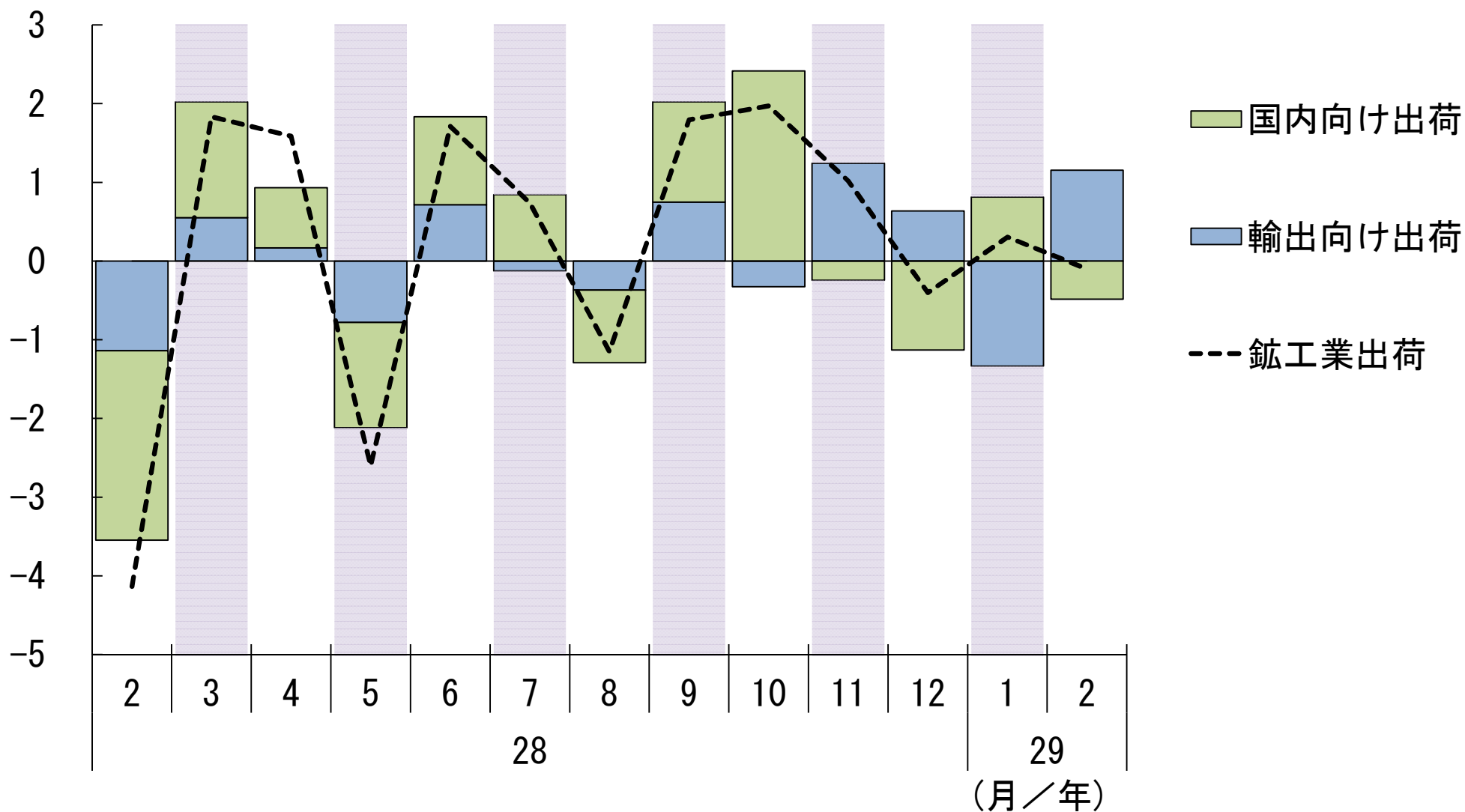


(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。

鋳工業出荷前月比 国内向け／輸出向け別の影響度合い

- 平成29年2月の鋳工業出荷は輸出向けは上昇したものの、国内向けは低下したため、前月比-0.1%の低下。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



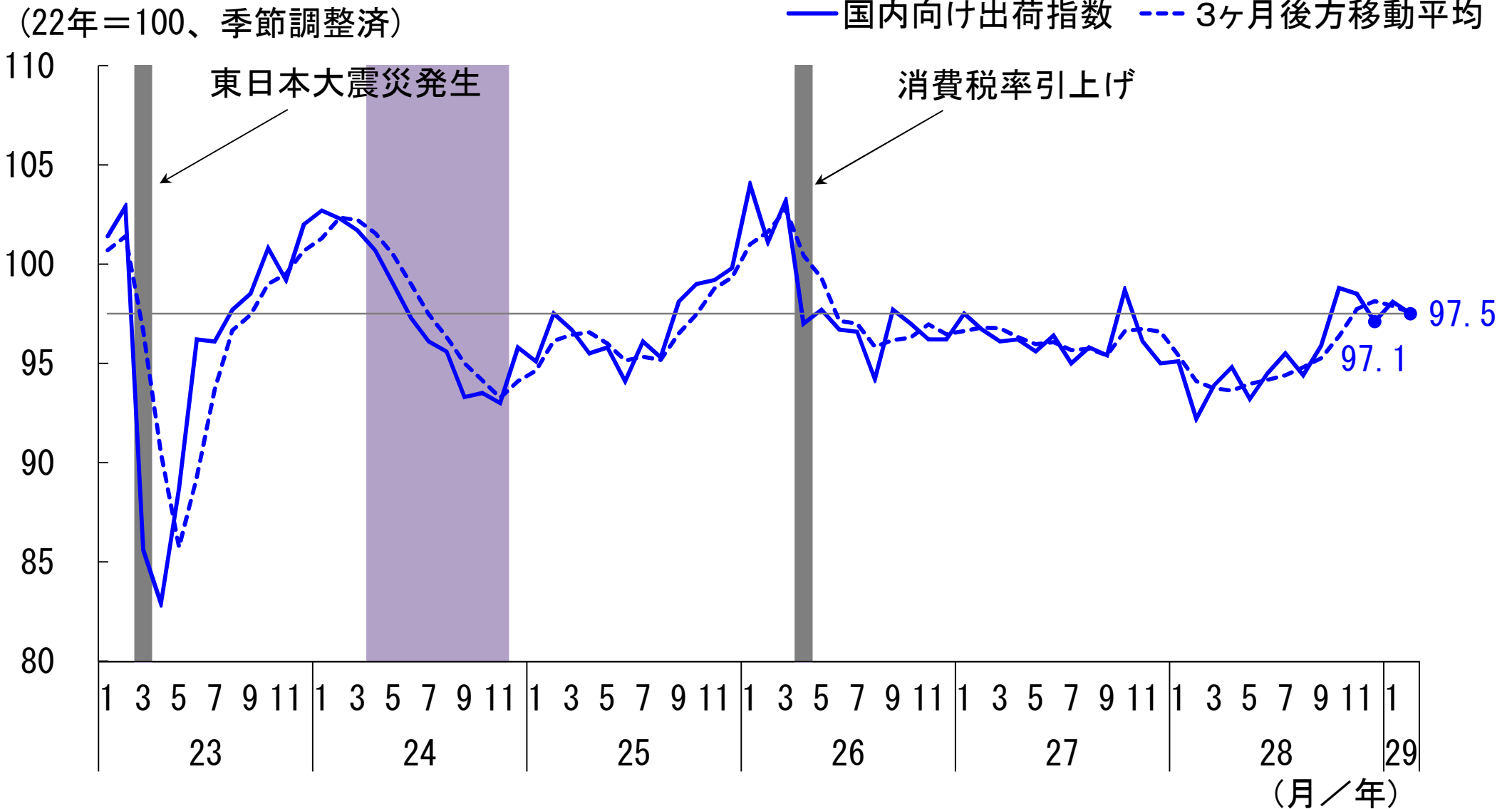
主要4業種、財の出荷前月比 国内／輸出向け出荷の影響度合い

業種別分類	出荷前月比 (%)	国内寄与度 (%ポイント)	輸出寄与度 (%ポイント)
輸送機械工業	1.0	0.60	-0.13
はん用・生産用・ 業務用機械工業	-0.2	-2.99	1.02
電子部品・デバイス工業	-1.3	-2.17	2.26
化学工業(医薬品除く)	0.9	-1.53	2.54

財別分類	出荷前月比 (%)	国内寄与度 (%ポイント)	輸出寄与度 (%ポイント)
鉱工業生産財	1.0	-0.44	2.04
資本財(輸送機械除く)	-3.1	-5.63	1.78
建設財	0.6	0.00	0.78
耐久消費財	3.5	2.82	0.21
耐久消費財のうち 乗用車・二輪車	3.2	3.28	-0.14
非耐久消費財	1.3	0.68	0.56

国内向け出荷指数の動向

- ・平成29年2月の国内向け出荷指数は97.5(前月比-0.6%)と2か月ぶりの低下。
- ・平成28年12月の97.1以来の指数水準。

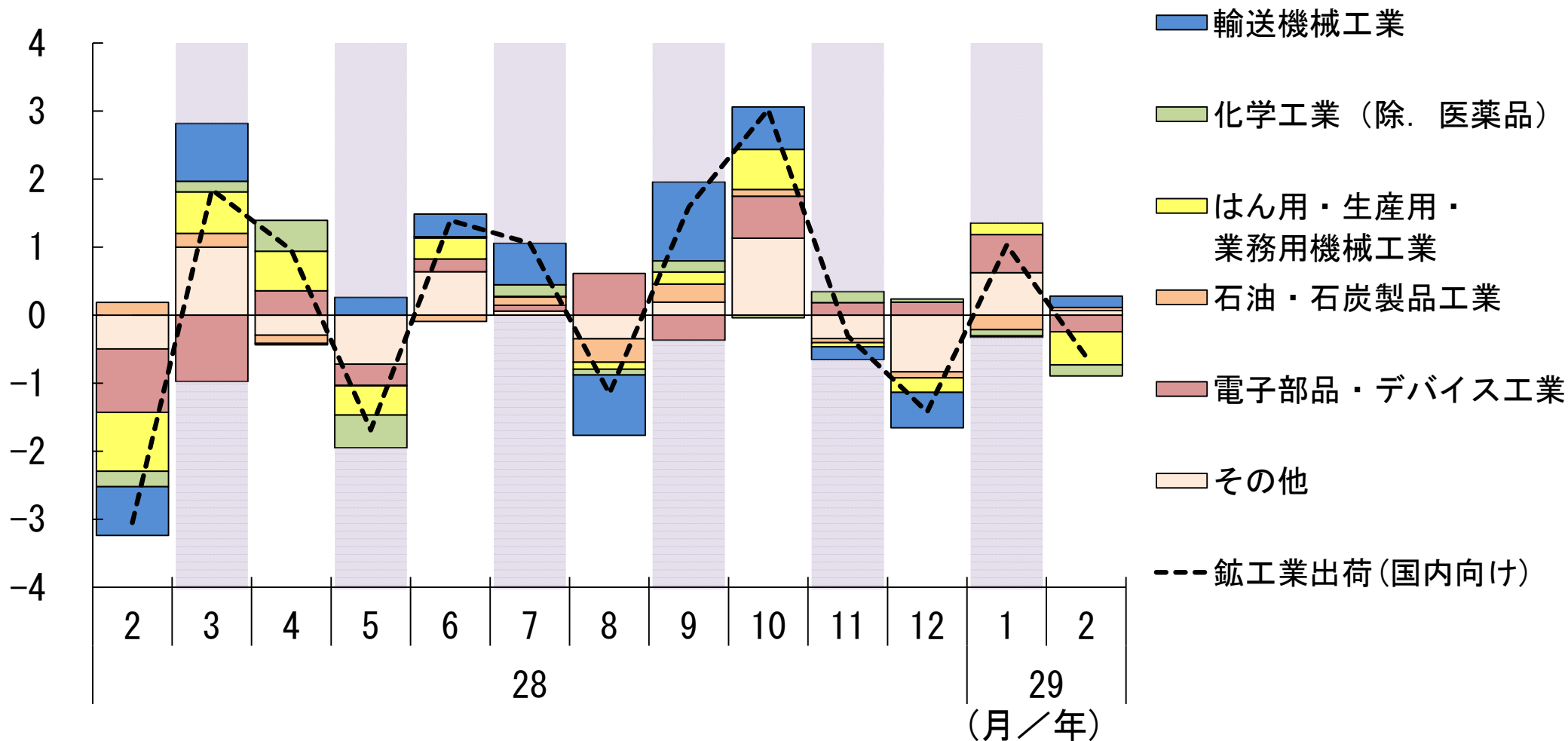


(注) 紫色のシャド一部分は景気後退局面。

国内向け出荷前月比 業種別の影響度合い

- 平成29年2月の国内向け出荷を、主要業種別にみると、輸送機械工業などが上昇したものの、はん用・生産用・業務用機械工業などが低下。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



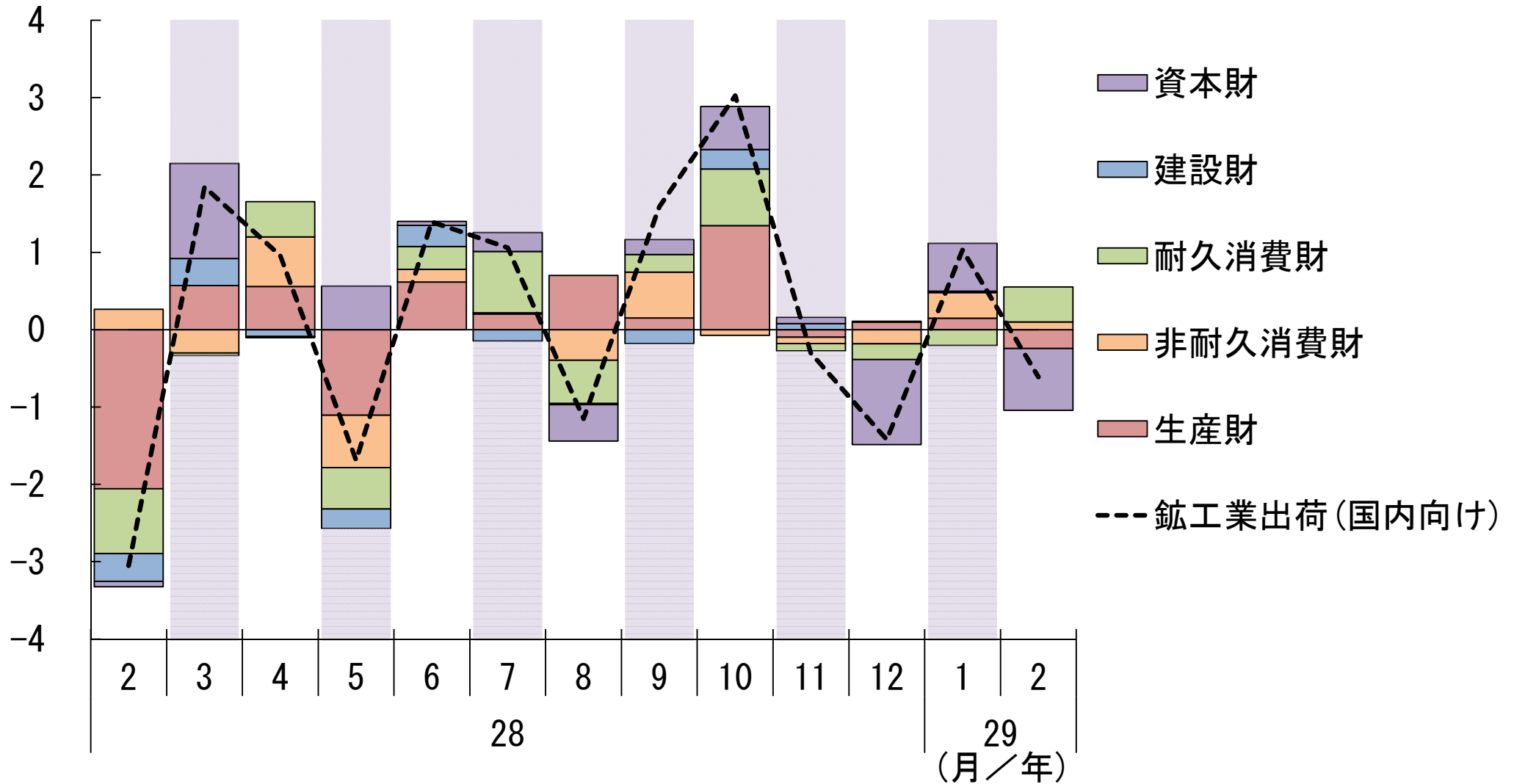
(注)主要業種とは、国内向け出荷(ウエイト8028.51)のうち、ウエイトが大きい5業種を選定。

具体的には、輸送機械工業(国内向け、ウエイト1658.38)、はん用・生産用・業務用機械工業(同、同796.12)、化学工業(除. 医薬品)(同、同717.06)、石油・石炭製品工業(同、同574.89)、電子部品・デバイス工業(同、同457.59)。

国内向け出荷前月比 財別の影響度合い

- 平成29年2月の国内向け出荷を、財別にみると、耐久消費財などが上昇したものの、資本財などが低下。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



平成29年2月の国内向け出荷前月比 財別・業種別の影響度合い

財別分類	前月比(%)	寄与率(%)
鉱工業	-0.6	-481.7
資本財	-4.4	-629.4
はん用・生産用・業務用機械工業	-7.4	-567.7
電気機械工業	-4.6	-81.3
鉱工業用生産財	-0.6	-203.2
電子部品・デバイス工業	-3.4	-212.6
化学工業(注)	-3.9	-174.2
建設財	0.0	0.0
-	-	-
-	-	-
その他用生産財	0.9	35.7
石油・石炭製品工業	0.7	15.6
電気機械工業	35.1	12.2
非耐久消費財	0.7	78.4
化学工業(注)	2.0	70.6
石油・石炭製品工業	1.8	33.3
耐久消費財	3.5	356.0
輸送機械工業	4.7	344.4
その他工業	3.5	8.2

寄与率：出荷全体の変動に対して影響を及ぼした、財別・業種別の影響の度合い。全ての寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら-100%になる。

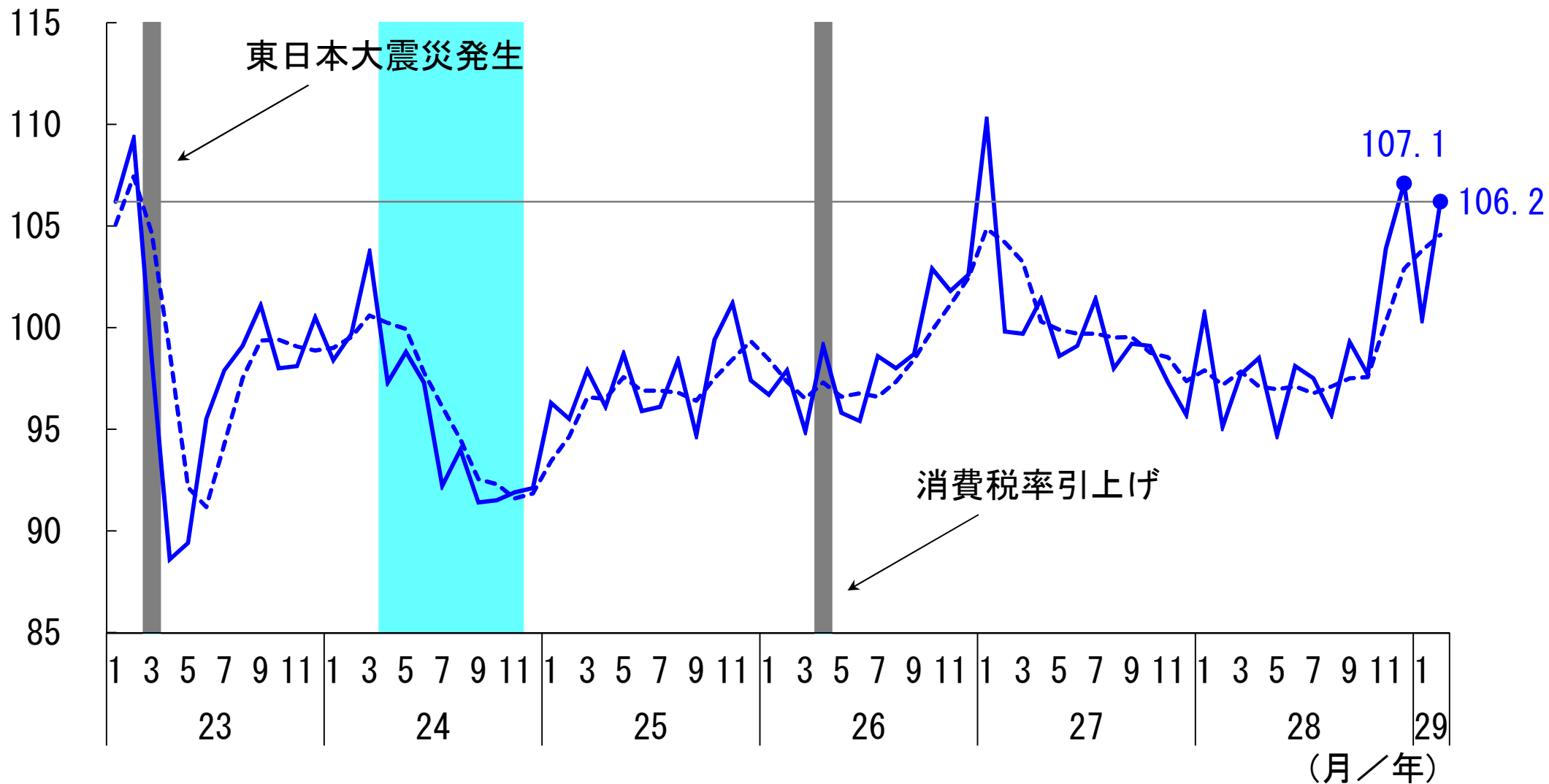
(注)医薬品については、実績データではなく、暫定的な推計値を投入して、寄与を計算している。

輸出向け出荷指数の動向

- 平成29年2月の輸出向け出荷指数は106.2(前月比5.8%)と2か月ぶりの上昇。
- 平成28年12月の107.1以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)

— 輸出向け出荷指数 - - - 3ヶ月後方移動平均

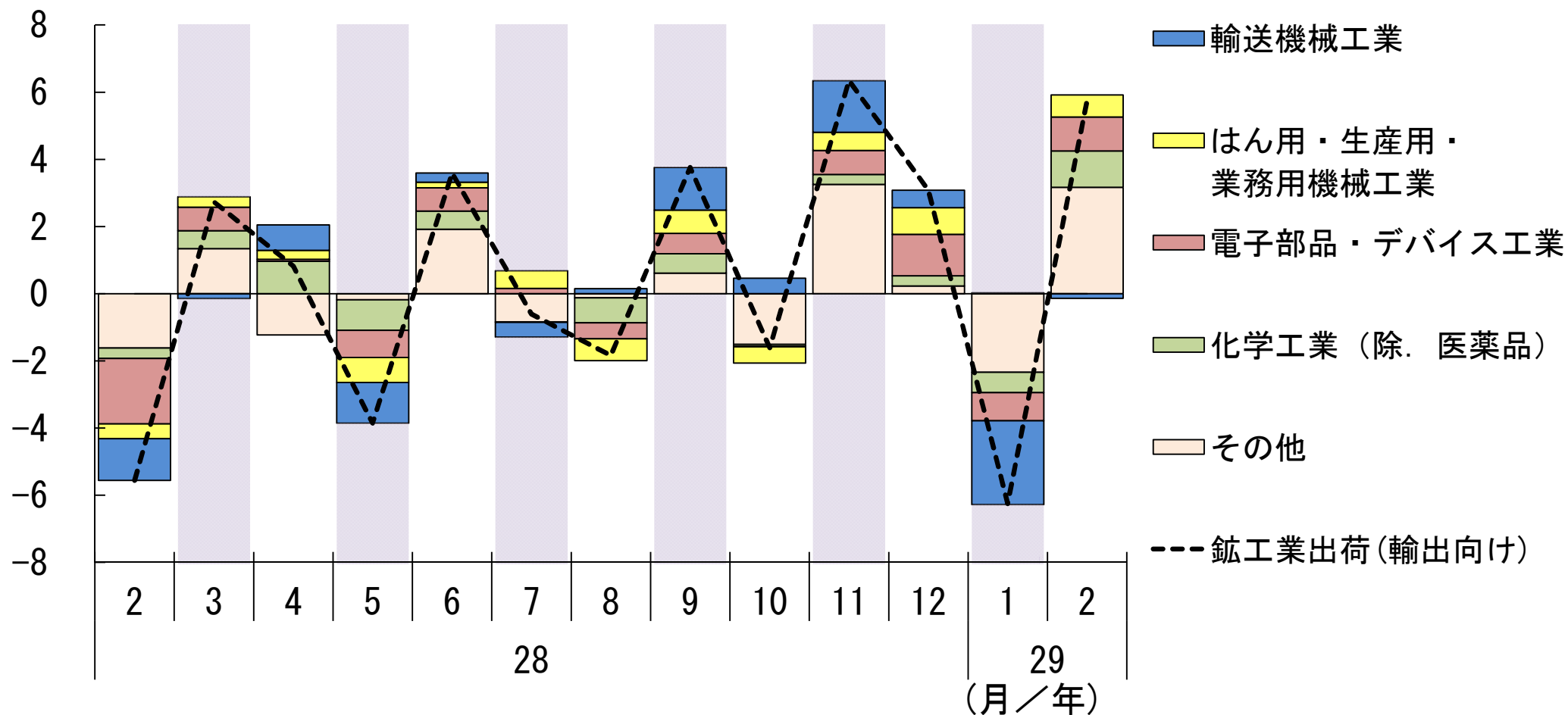


(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。

輸出向け出荷前月比 業種別の影響度合い

- 平成29年2月の輸出向け出荷を、主要業種別にみると、輸送機械工業が低下したものの、化学工業（除. 医薬品）などが上昇。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



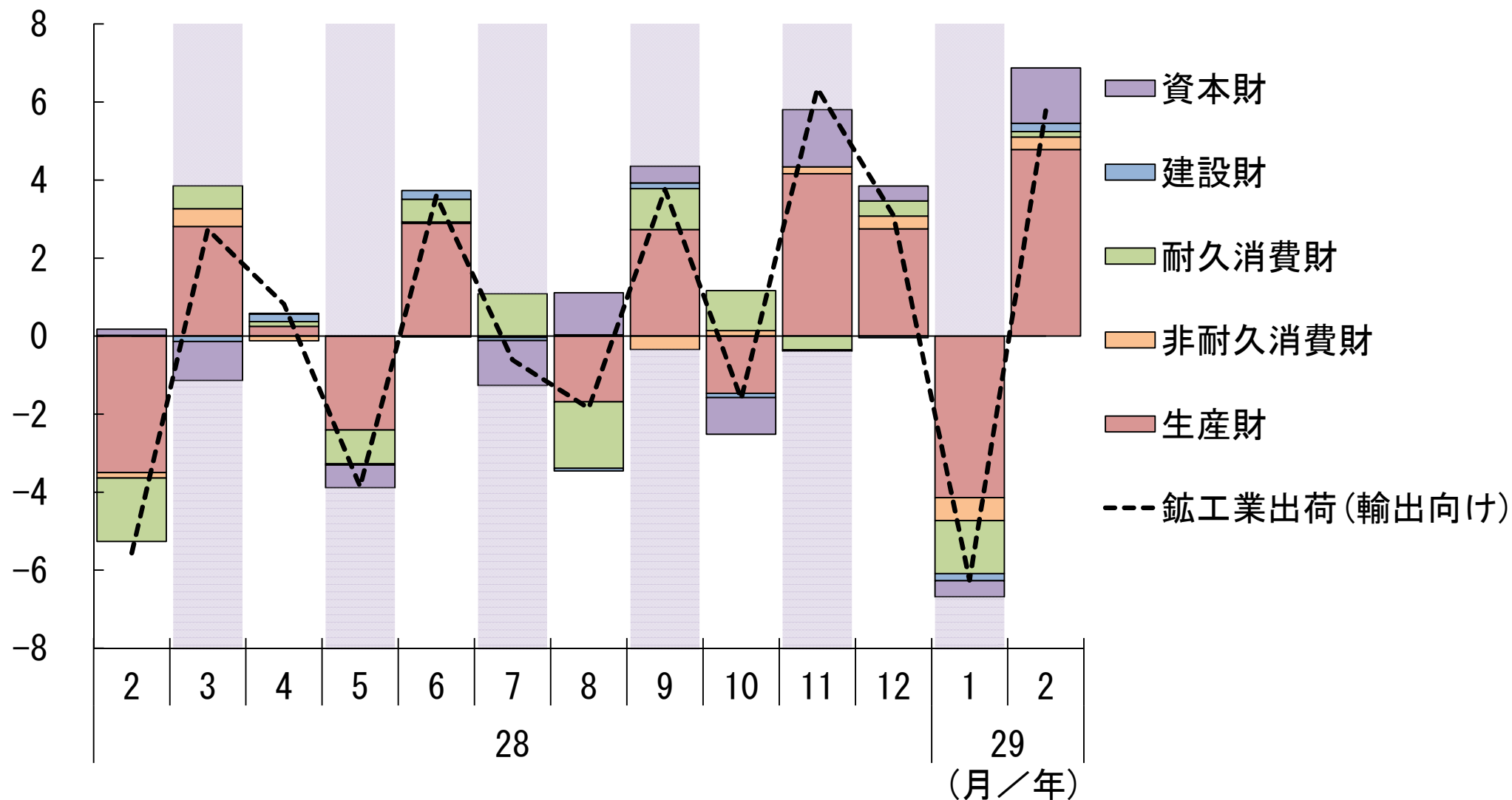
(注) 主要業種とは、輸出向け出荷(ウエイト1971.49)のうち、ウエイトが大きい業種(上位4業種)を選定。

具体的には、輸送機械工業(輸出向け、ウエイト560.52)、はん用・生産用・業務用機械工業(同、同289.48)電子部品・デバイス工業(同、同253.51)、化学工業(同、同166.14)の4業種。

輸出向け出荷前月比 財別の影響度合い

- 平成29年2月の輸出向け出荷を、財別にみると、生産財などが上昇。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



平成29年2月の輸出向け出荷前月比 財別・業種別の影響度合い

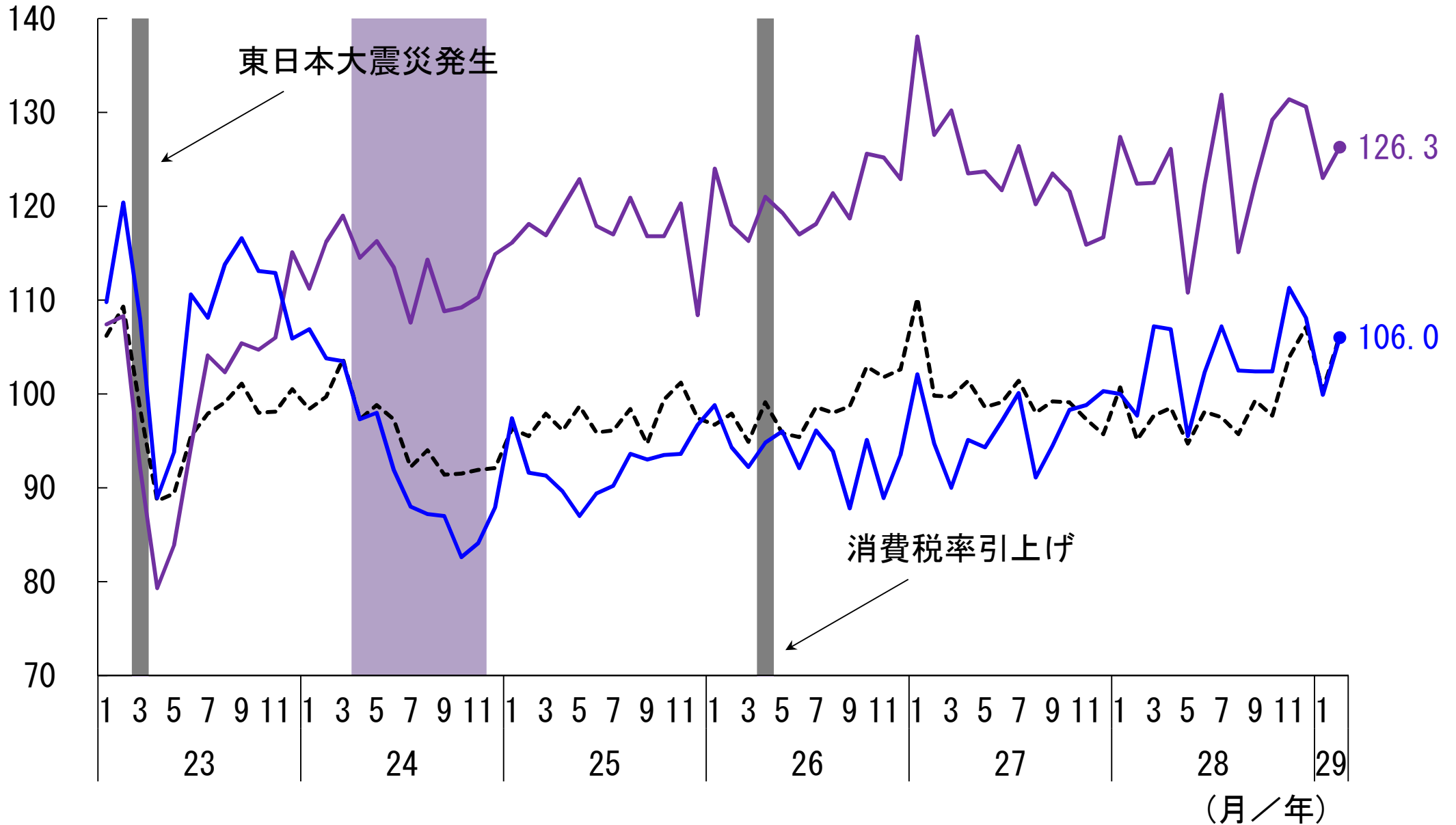
財別分類	前月比(%)	寄与率(%)
鉱工業	5.8	1143.5
鉱工業用生産財	8.1	933.4
輸送機械工業	12.0	267.3
電子部品・デバイス工業	8.2	201.5
資本財	7.1	281.8
電気機械工業	24.7	111.1
はん用・生産用・業務用機械工業	3.8	86.8
非耐久消費財	10.7	64.5
化学工業	16.5	51.7
その他工業	27.7	20.3
建設財	12.8	41.9
石油・石炭製品工業	215.1	26.2
プラスチック製品工業	17.4	16.0
耐久消費財	1.1	26.6
はん用・生産用・業務用機械工業	37.8	15.5
電気機械工業	37.2	12.5
その他用生産財	-16.5	-133.5
石油・石炭製品工業	-22.7	-109.6
化学工業	-3.6	-3.0

寄与率：出荷全体の変動に対して影響を及ぼした、財別・業種別の影響の度合い。全ての寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら-100%になる。

欧米向け出荷指数の動向

(22年=100、季節調整済)

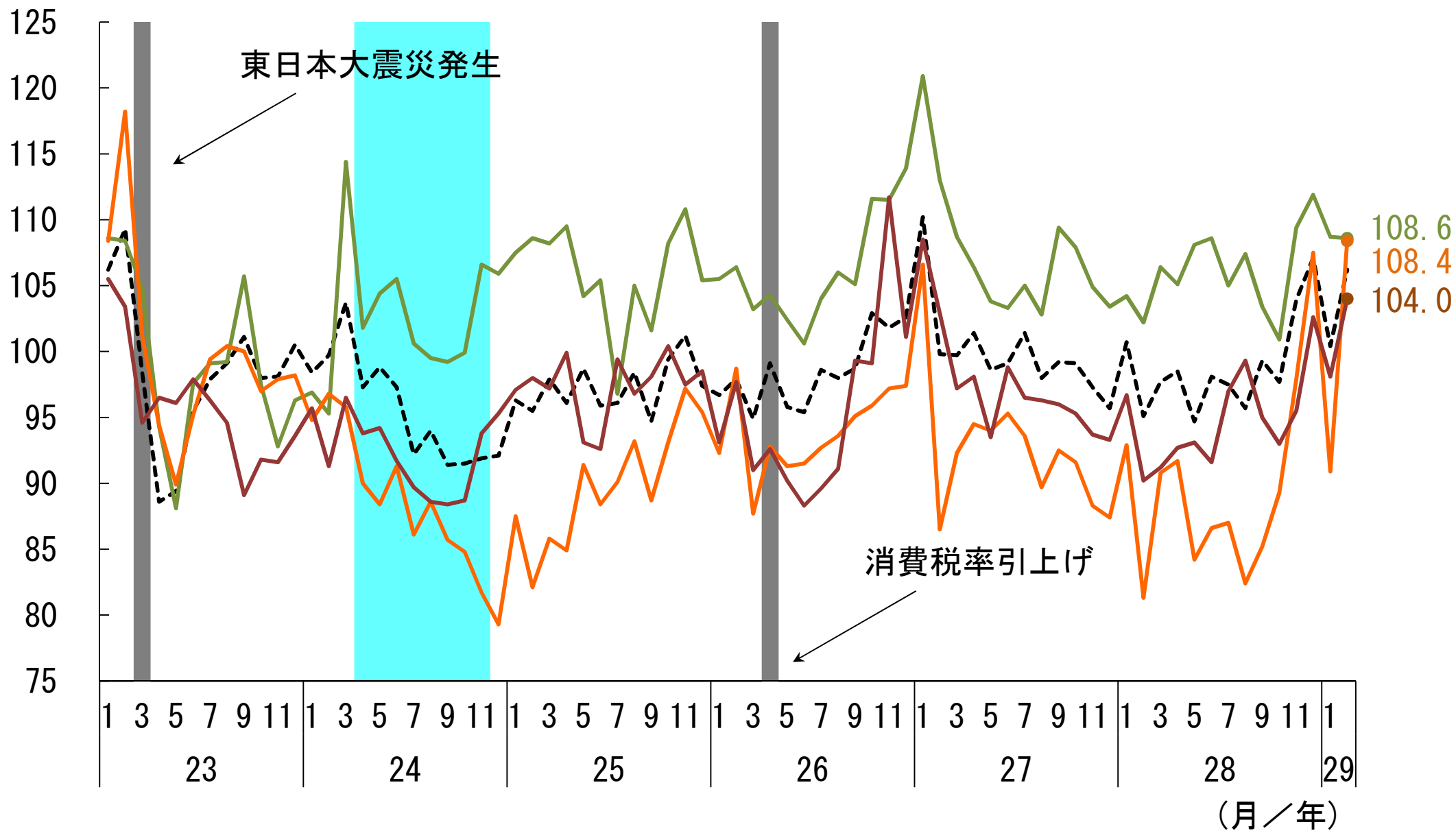
--- 輸出向け出荷 — 米国向け — 欧州向け



(注) 紫色のシャド一部分は、景気後退局面。

アジア向け出荷指数の動向

(22年=100、季節調整済) --- 輸出向け出荷 — ASEAN向け — 中国向け — 韓国向け

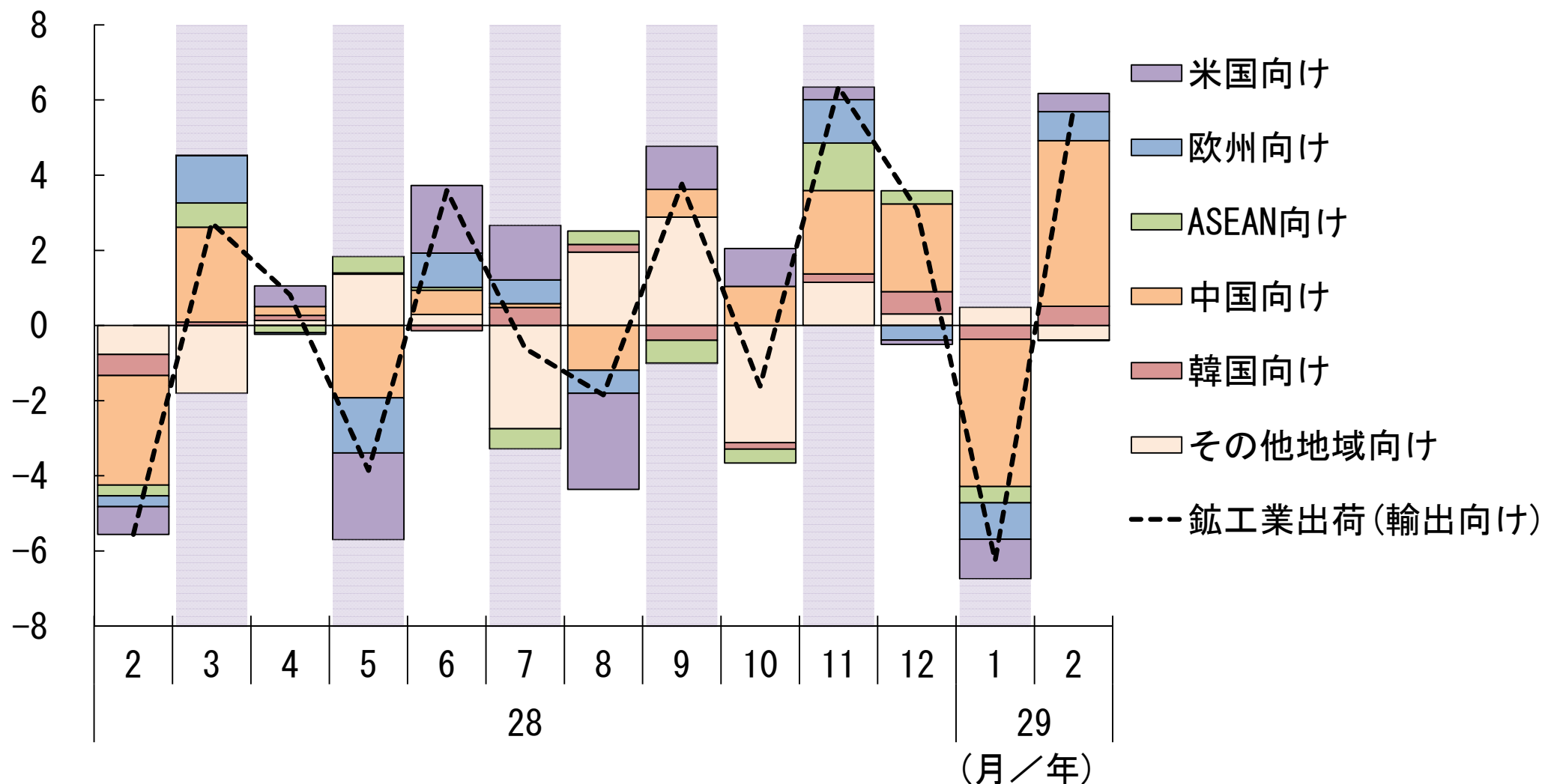


(注) 紫色のシャド一部分は、景気後退局面。

輸出向け出荷前月比 地域別の影響度合い

- 平成29年2月の輸出向け出荷を、地域別にみると、その他地域向けなどが低下したものの、中国向けなどが上昇。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



(注) 試算値。

主要4業種、財の出荷前月比 米国／中国向け出荷の影響度合い

業種別分類	輸出向け出荷 前月比 (%)	米国向け 寄与度 (%ポイント)	中国向け 寄与度 (%ポイント)
輸送機械工業	-0.5	5.70	4.47
はん用・生産用・ 業務用機械工業	4.0	-1.33	34.16
電子部品・デバイス工業	8.1	-2.11	31.27
化学工業(医薬品除く)	12.3	4.92	23.94

財別分類	輸出向け出荷 前月比 (%)	米国向け 寄与度 (%ポイント)	中国向け 寄与度 (%ポイント)
鉱工業生産財	8.1	-1.88	25.20
資本財(輸送機械除く)	8.2	7.08	6.06
建設財	12.8	-4.42	31.32
耐久消費財	1.1	11.01	5.08
耐久消費財のうち 乗用車・二輪車	-0.7	8.96	1.11
非耐久消費財	10.7	23.44	49.12

(注) 米国と中国以外の地域への輸出も相当量あることから、米国向け出荷と中国向け出荷の寄与度を合計しても輸出向け出荷の前月比になるわけではない。
それぞれの寄与度は、輸出向け出荷全体に対する米国向け出荷と中国向け出荷の影響度合いの目安として示している。

平成29年2月の鉱工業総供給表の状況

総供給・国産品供給・輸入品供給

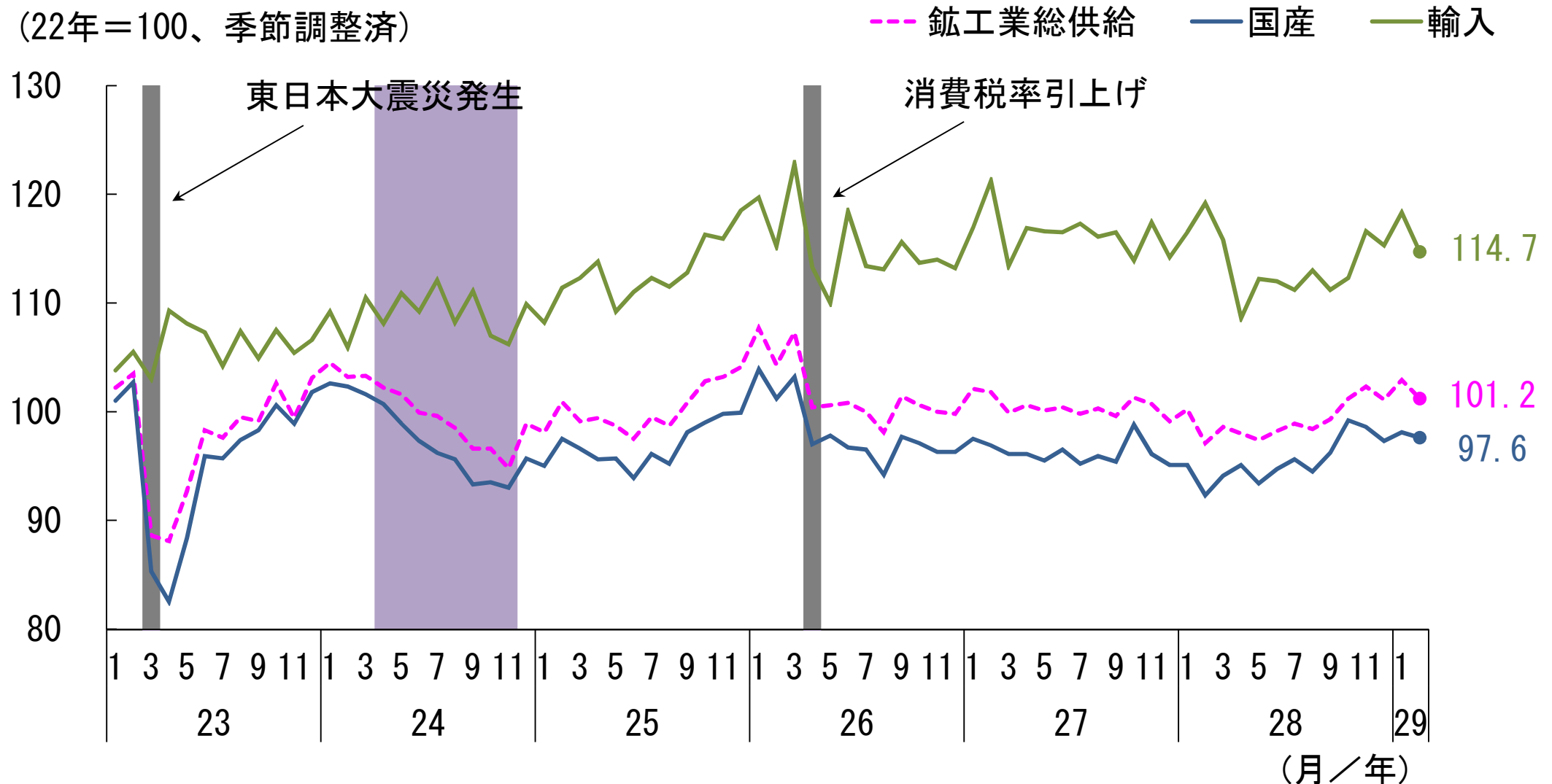
月次	総供給	国産	輸入
季調済指数 前月比	101.2 -1.7%	97.6 -0.5%	114.7 -3.0%
指数水準	H28.12 101.1以来 ①H21.2 82.4 ②H21.3 82.5 ③H21.4 84.1	H28.12 97.3以来 ①H21.2,3 82.1 ②H23.4 82.5 ③H21.4 82.6	H28.10 112.3以来 ①H21.2 81.7 ②H21.5 82.3 ③H21.3 85.2
前月比の動き	2か月ぶりー (H28.12以来)	2か月ぶりー (H28.12以来)	2か月ぶりー (H28.12以来)
前月比幅	H28.2 -3.1%以来 ①H23.3 -14.4% ②H21.1 -7.3% ③H21.2 -6.6%	H28.12 -1.3%以来 ①H23.3 -16.9% ②H21.1 -9.3% ③H20.12, H26.4 -6.0%	H28.4 -6.2%以来 ①H21.2 -11.9% ②H21.10 -8.3% ③H21.5, H26.4 -7.7%

(注) I～Ⅲは22年基準における最大値から上位3位まで、①～③は最小値から下位3位までの数値

鉍工業総供給指数の動向

- ・平成29年2月の鉍工業総供給指数は101.2(前月比-1.7%)と2か月ぶりの低下。
- ・内訳をみると、国産は97.6(前月比-0.5%)と2か月ぶりの低下、輸入は114.7(前月比-3.0%)と2か月ぶりの低下。

(22年=100、季節調整済)

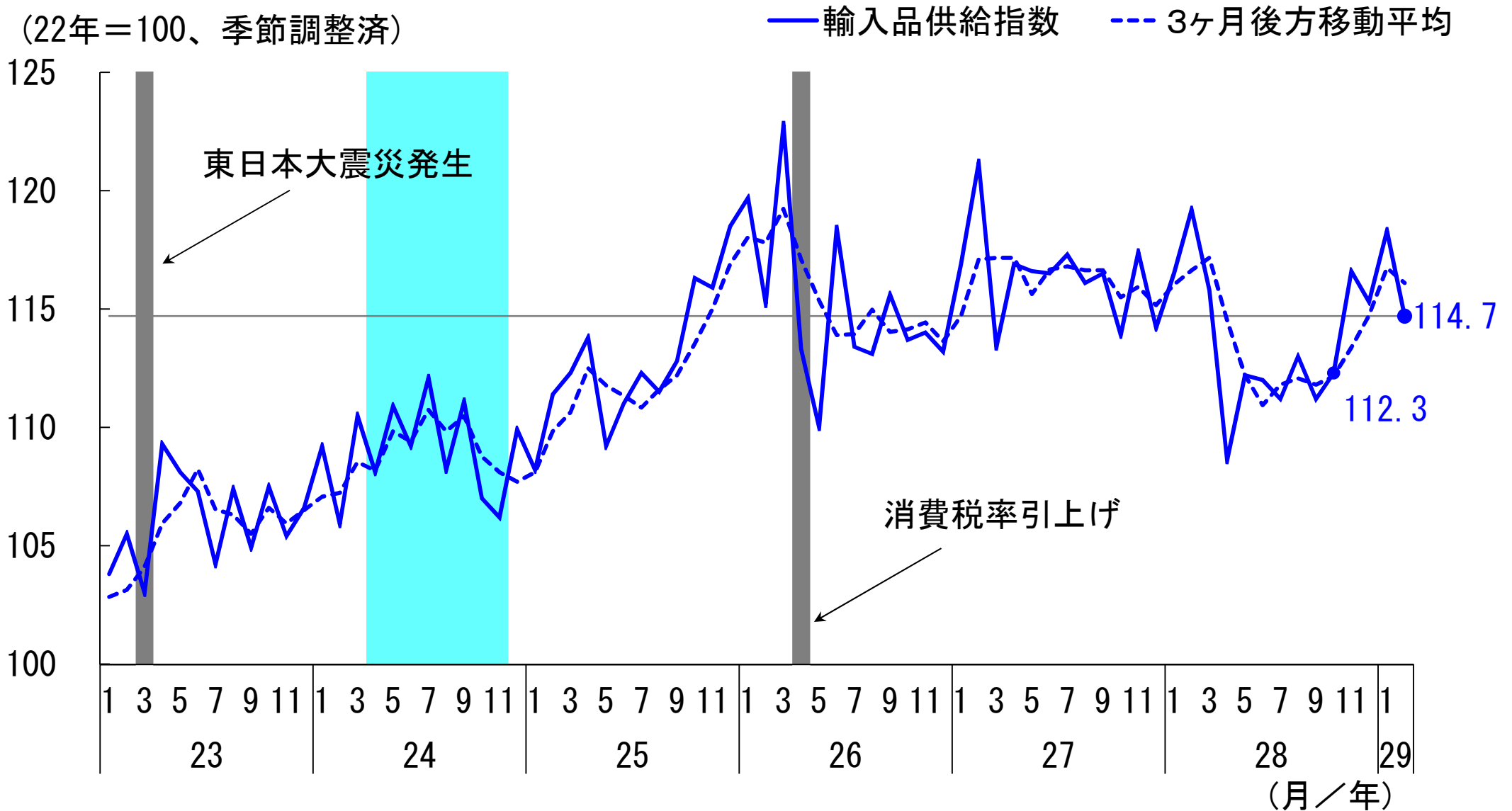


(注) 紫色のシャド一部分は景気後退局面。

輸入品供給指数の動向

- 平成29年2月の輸入品供給指数は114.7(前月比-3.0%)と2か月ぶりの低下。
- 平成28年10月の112.3以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。